



タブレットの画面をモニターに無線で投影し、WiFiなしでも使えるワイヤレスディスプレイアダプター ScreenBeam(スクリーンビーム)。今回は、富士河口湖町でいち早くスクリーンビームの導入を進めた現場の先生にお話を伺うとともに、その機能についても詳しくご紹介します。



「町内小・中学校の全教室にスクリーンビームを導入、教室の無線化の価値は想像以上でした。」—— 富士河口湖町立小立小学校教諭 深澤先生

◆富士河口湖町がすすめる先進的な教育環境

町全体に“児童の内発的なものを引き出していこう”という哲学があり、文科省のいうアクティブラーニングというものを実現しようと、早くからICT化を積極的に進めて来た富士河口湖町。2014～15年度にかけて、電子黒板機能付きのプロジェクターやタブレットの導入を決め、現在では町内の全小・中学校の各教室に、電子黒板機能付きのプロジェクターと共にスクリーンビームを設置しました。また、タブレットは学習者用として2～3人に1台という割合で各校に導入。ミラキャストが利用できる、無線LANの整備がされた教室での、生徒が顔を上げて参加できる授業が実践されています。

◆スクリーンビームの導入に至るまでの背景

富士河口湖町では教育の情報化や公務の効率化ということを考え、教育現場のICT化を推し進めていくなかで、先ず始めに電子黒板機能付きのプロジェクターとタブレットを各クラスに導入することを町の方針として決定しました。そのことからデジタル機器を安定して活用する構想が持ち上がり、無線化という話の流れに。プロジェクターを扱っている業者さんからWindowsのミラキャスト規格の紹介を受けて、その受信機端末を調べたところスクリーンビームを見つけ採用するに至りました。

◆スクリーンビームが選ばれた理由とは？

デジタル機器の導入が決まったばかりの当初は、HDMIケーブルで機器をつなぐことも検討したという富士河口湖町教育センターの古屋所長。「現場で教える先生たちにはそれぞれ、授業の“間”や“テンポ”といった独自のスタイルがあるはずであり、通信の遮断や

遅延が頻繁に起きると教育スキルを十分に活かすことはできません。また、教室の子どもたちに目を向けながら授業を進めるには、動ける範囲が固定されてしまうケーブルがあったら邪魔だろうと考えました。“簡単に操作できてどの学校でもどの先生でも同じように使え、先生たちが自由に動ける”というのがスクリーンビームを選んだポイントです。」



深澤 隆仁 先生

◆ICT環境を整備して得られた効果

「教室の無線化の価値は想像以上に大きかったですね。先生がタブレットを持ったまま自由に動けるので、子どもたちにより注意が向けられ、側まで行って反応を見ることができます。現場にいる先生たちからは、“子どもたちが顔をあげて電子黒板に集中していることが増えた”という声が上がっています。」と語る町立小立小学校教諭深澤隆仁先生。

ICTが日々進歩するなかで、その技術を有効的に活用する能力をどうやって高めていくか、いかに安定的に使っていくかという点が今後の課題でもあります。

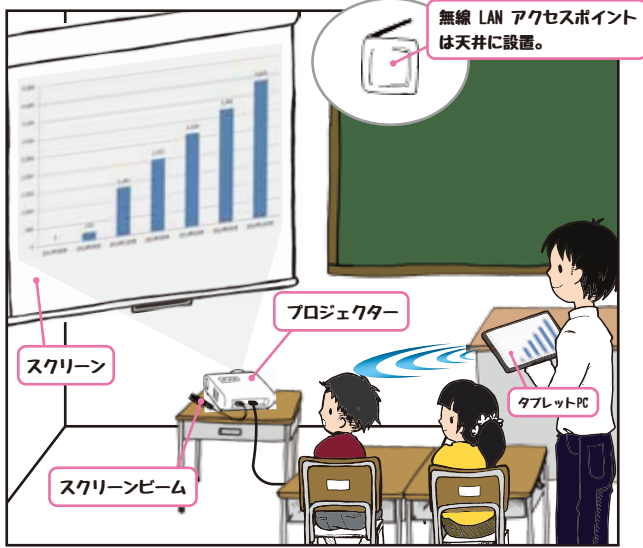
「町ではモデル校を選定しての検証や、先生たちに対しての研修も行っています。例えば最近の授業では、子どもたちのノートを書画カメラで撮って考えを比較したり、課外授業へ出てタブレットで撮影したものを持ち帰って教室で観察するなど。ICTの活用方法を工夫し授業スタイルの自由度を広げて行くことで、今後子どもたちの情報活用能力も向上していくことに期待を寄せています。」



ふじびよん

富士河口湖町の紹介

- 人口…26,503人(2018年1月1日現在)
- 世帯数…10,280人(2018年1月1日現在)
- 予算規模…120億8,000万円(2017年度一般会計当初)
- 面積…158.40平方キロメートル
- 町内小学校…8校、中学校…3校
- 概要…日本のシンボルである霊峰富士の北麓に位置する富士河口湖町(ふじかわぐちこまち)は、緑豊かな自然と山々に恵まれ、青木ヶ原樹海に代表される森林と原野で覆われ、その間に火山噴出物で堰き止められた4つの湖、河口湖、西湖、精進湖、本栖湖があり、富士山の裾野には開けた青木ヶ原・富士ヶ嶺高原など広漠とした日本屈指の景勝地を形成しています。



現場の声にお答え

Q&Aコーナー



ハリポー

ここでは、現場から寄せられたさまざまな疑問や質問についてアクションテックがお答えいたします！

Q スクリーンビームの設置に必要な作業を教えてください。

A とても簡単です。スクリーンビームの本体をHDMIケーブルでモニターと接続し、付属のAC電源アダプターを使ってコンセントから給電すれば設置は完了です。

Q スクリーンビームを利用するのにアプリケーションやドライバーなどは必要になりますか？

A お使いのPCがWindows10/8.1の場合、標準機能として利用できますので、アプリケーションやドライバーは不要です。一方OSがWindows7/8の場合には、別売りの送信機 ScreenBeam Transmitter2 をご使用いただくとともに、専用アプリのインストールが必要になります。

Q タブレットでスクリーンビームを利用しながら、WiFiを経由して校内システムへ接続できますか？

A はい。本製品と接続しながら同時に、WiFiを経由してインターネットや校内システムに接続いただくことが可能です。

スクリーンビーム 3つのメリット

- ① 無線だから動ける！
- ② 遅延が少ない！
- ③ 操作が簡単！

アクションテックからの視点 【ケーブルからの解放が授業スタイルを進化させる】

■ICT化が進む教育現場での課題

PCやタブレットが普及し、授業教材に動画コンテンツが増えている中で、教育現場には数年前から無線LANシステムが普及し始めているものの、現状では最新設備でも遅延や遮断があり、安心して動画を送信する能力がありません。

解決策には、動画送信用に策定された無線規格であるミラキャスト対応の機器を導入することです。ミラキャスト規格の仕様づくりに参加しているActiontec社が機器製造に直接乗り出し、安定した接続性と、遅延時間66ミリ秒という業界最速の通信性能を実現しました。ミラキャストはWindows10に標準搭載されている機能であり、IT先進国である米国ではすでに7万を超える教室への導入実績があります。

Actiontec Electronics, Inc. 日本オフィス

お問い合わせ

☎ : 03-5288-5340* ※平日(土日祝除く)
10:00-17:00

✉ : japan-sales@actiontec.com

Actiontec Electronics, Inc. 日本オフィスは、下記の団体に参加しています。

- ・一般社団法人日本教育情報化振興会 正会員
- ・ICT CONNECT 21 会員
- ・Windows クラスルーム協議会 会員

*Actiontec Electronics, Inc.、Actiontec、Actiontec Logo、ScreenBeamおよびScreenBeam Proは、米国Actiontec Electronics, Inc.の登録商標です。記載されている会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

*製品の仕様は予告なく変更される場合があります。最新の仕様については弊社営業までご確認ください。